

## 推薦のことは

2014年厚生労働省人口動態調査推計報告によると、わが国の死亡原因は悪性新生物（がん）が第1位、心疾患が第2位、肺炎が第3位、脳血管疾患が第4位であり、血管性疾患が約40%と多くを占めています。このように血管性疾患の多い事を背景に、心臓カテーテル検査・治療をはじめ頭頸部・胸部・腹部・四肢の血管検査・治療を行う施設が増加しています。今日行われている頭頸部・胸部・腹部・四肢血管の検査・治療では高度画像診断機器を用い、デジタル画像データを屈指し、他のモダリティ画像（CT画像、MR画像、超音波画像）を同時に表示しながら、リアルタイムに治療を行っています。周辺医療機器や医療器材の開発と改良も進み、治療成績の向上に大きく寄与しています。これらハード面の向上は検査・治療にかかわる医師、診療放射線技師、看護師、臨床工学技士、臨床衛生検査技師等に対して、「根拠に基づく医療」(evidence based medicine: 以下、EBM) とハイレベルの医学知識・臨床技術・臨床技能を要求しています。

本書は、そういった時代の医療ニーズに応えるために、循環器画像技術研究会で30年以上培ってきた臨床技術を再度見直し、定例研究会で毎行っている症例提示によるテクニカルデスカッションを中心に、第一部 基礎編として血管撮影装置の概略、インジェクタ、診断補助装置、カテ前情報・カテ中情報・情報のとらえ方、血管撮影領域におけるデジタル画像、画像ネットワーク、安全管理、医療器具、装置器材・周辺機器、第二部 臨床編として頭部領域、胸部領域、腹部領域、四肢領域における血管解剖、撮影技術・診断、臨床症例について、詳細に解りやすく記述されています。頭頸部領域から四肢領域に亘る血管を画像化する技術は高度画像診断X線装置の性能、デジタル画像処理の性能、デジタル画像表示装置、サーバー等のハード面の性能に委ねられているところがありますが、最終的に臨床画像を作成するのは診療放射線技師や医師であります。従って、頭部血管から四肢血管に至るまでの治療に必要な最適な最大情報量の臨床画像を作成する専門家はその疾患を熟知していることが重要であります。生きた生体情報を生きたまま画像化する瞬間に、全てのテクノロジーが結晶化されるものであります。

循環器画像技術研究会は『心血管造影技術マニュアル』三輪書店(1994)、『カテーテルスタッフのための心血管画像学テキスト』医歯薬出版(2004)、『心血管画像技術 完全ガイドブック』医療科学社(2014)、『血管画像技術 完全ガイドブック——頭頸部・胸部・腹部・四肢——』医療科学社(2015)と血管画像学の技術的精髓を本として出版してきました。この事業は診療放射線学の発展に多大なる貢献を行っています。これもひとえに会員の皆様をはじめ多くの諸先輩方、諸先生方のご支援とご協力の賜と感謝を申し上げます。

本書は頭頸部・胸部・腹部・四肢血管検査・治療分野で活躍する診療放射線技師、医師、看護師、臨床工学技士、臨床衛生検査技師の質の向上を目指す手引き書として有用であります。また、チーム医療を進める上で有用な情報が満載されていますので推薦します。

2015年 7月吉日

循環器画像技術研究会

顧問 中澤 靖夫

(昭和大学大学院保健医療学研究科教授)